

◇博物館だより◇

京都大学 総合博物館 (The Kyoto University Museum)

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

HP:<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp>

TEL:075-753-3272(代)

FAX075-753-3277

E-mail:info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp

1. 博物館の創設

1996年に学術審議会から『ユニバーシティ・ミュージアムの設置について』という報告が出された。その中で「殊に国立大学については、精選された学術標本が極めて多いことから、この報告の趣旨を踏まえ、直ちにユニバーシティ・ミュージアムの設置に着手することが望まれる」として、大学に総合的な博物館が、それも緊急に必要であることが述べられている。この報告を受けて、同年に東京大学に文科系と理科系を合わせた総合研究博物館が、そして翌年の1997年に京都大学に設置されたのが当博物館である。たまたまこの年は京都大学創立百周年であったので発足早々、創立百周年記念展覧会の一部が当館において開催された。このような総合博物館の設置はその後も続き、現在では全ての旧7帝大や鹿児島大学に設置されている。

発足時の博物館の建物は組織替えされた旧文学部博物館(現在の本館)のみであったが、1999年からその隣接地に南棟の建設が始まり、一般の観覧は休止となった。南棟完成後の2001年6月に観覧が再開されたが、総合博物館としては実質的にこのときから開館したと言える(図1)。



図1 総合博物館入口付近の外観

2. 研究スタッフ

組織的には(1)資料基礎調査系、(2)資料開発系、(3)情報発信系の3つの系からなっており(他の大学の総合博物館もほぼ同じ系構成である)、各系に教授、助教授、助手が1名ずつの計9名の研究スタッフが配置されている。事務職員は6名である。いろいろな学部から研究スタッフが移ってきた文科系と理科系を合わせた総合博物館ではあるが、実際の収蔵資料の管理は、その資料の元の保管部署(学部)出身の研究スタッフが行うことにならざるを得ない。文学部出身スタッフが恐竜化石を管理したり、理学部出身スタッフが江戸時代の古文書を管理したりすることはない。スタッフの研究についても同様で、管理する資料に関係するものが主となる。したがって組織としては系分類されているものの、収蔵資料の種類別に、すなわち、文化史資料、自然史資料、技術史資料につ

いて、それぞれに専門知識のある研究スタッフが博物館活動をしているのが実情である。この分類による研究スタッフの構成は文化史関係(文学部出身)が3名、自然史関係(理学部、農学部、総合人間学部出身)が5名、技術史関係(工学部出身)が1名である。

3. 技術史関連資料

京都大学に遺されている技術史資料は、旧制第三高等学校(三高)時代の理科実験機器など500点程度あることが1997年の調査で判明している。これらの中で三高の理科実験機器(厳密には自然史資料ともいえるが)は総合博物館に収蔵されているが、他の技術史資料は展示されている数点を除き、主に工学部の各学科に分散保管されていて博物館にはない。問題はその保管状況が必ずしも十分ではないということである。その上、現在、工学研究科は桂キャンパスへ移転の最中であるが、移転の際にその技術史的価値が分からぬままに廃棄される懸念もある。早期の技術史資料収蔵スペースの確保が強く望まれる。なお、平成16年秋季の企画展(9月29日~12月26日「新世紀を創る - 京都大学の工学と貴重技術史資料 - 」)ではそれらの資料の一部が展示され、好評を博した。

わずかではあるが現在、総合博物館において展示されている技術史資料はつぎのようなものである。

(1) 全木製蒸気機関車模型(物理工学科・蔵、図2)

全ての部分が木で、あたかも金属でできているように精密に作られている。機械工学科が設置された1897年頃からあったらしいこの模型に関する文書資料は残されておらず、購入経緯を知る人も見つかっていないが、外観からイギリスのBeyer Peacock社製の5300形であることが判明している。この型の最初の蒸気機関車は1882年に製造され、24両が輸入された。また、この模型に使用されている木の樹種鑑定結果(伊東隆夫・木質科学研究所教授)から、ヒノキ属の一種とモクレン属の一種であることが同定され、両方ともイギリスを始め、ヨーロッパには分布せず、日本に分布する樹種であることから、この模型は輸入されたものでなく、日本で製作されたものであることが明らかとなった。



図2 全木製蒸気機関車模型

(2) 教育用機械メカニズム模型(物理工学科・蔵, 図3, 図4)

1903年にドイツのGustav Voigt社から購入されたことが、残されていた伝票から分かっている。ハンドルを回すと、模型の各部分が動き、基本的な機械メカニズムが理解できるように作られており、当時の先進機械技術導入の重要な役割を果たしたと思われる。京都大学物理工学科にはこのような教育用機械メカニズム模型が約60点保存されているが、その内の10点が総合博物館で展示されている。観覧者が体験できるようにレプリカも展示されている。また、これらの模型の3次元的アニメーションが総合博物館のホームページ(下記URL)で公開されている。

<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/museumF/materials.html/mechAnime.html>



図3 教育用機械メカニズム模型(1)

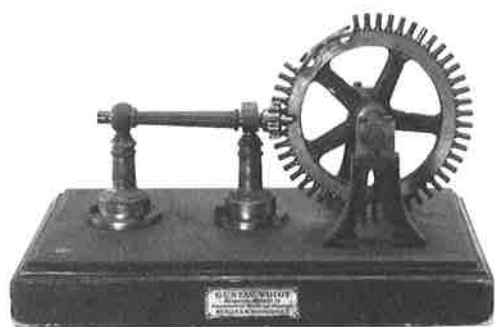


図4 教育用機械メカニズム模型(2)

(3) 関門トンネルシールドミニチュア模型

(土木工学科・蔵, 図5, 図6)

1942年に世界初の海底トンネルとして開通した関門トンネルの施工で用いられたシールド掘進機のミニチュア模型である。戦争色の強い社会情勢を反映して、外国からの技術援助は得られない状況下で、当時、鉄道省に入省して間のない村山朔郎(後に京都大学教授)が設計を担当し、日本のシールド技術のさきがけとなった。

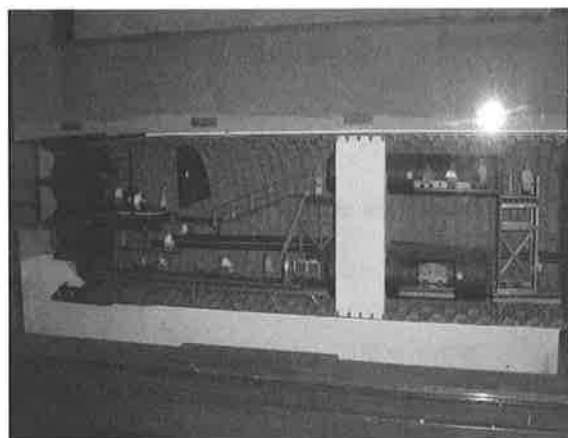


図5 関門トンネルシールド模型(全体)

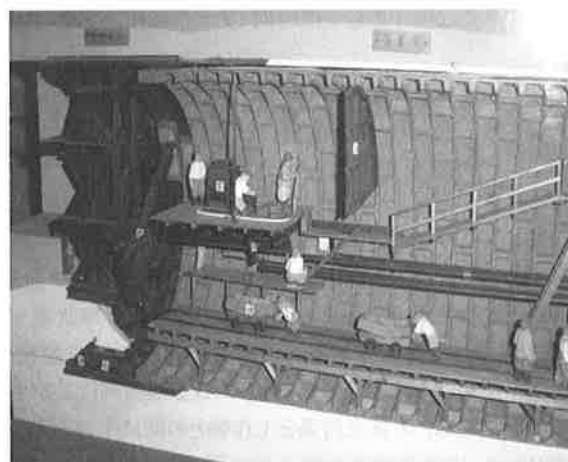


図6 関門トンネルシールド模型(部分)

4. 最後に

いまだに、“京都大学の総合博物館”という「え、誰でも入れるのですか」と聞かれることがある。なんとなく京都大学関係者以外は入館できないと思われる節がある。もちろんそんなことはなく、どなたでも歓迎で、気楽に立ち寄っていただければ幸甚である。

【博物館案内】

所在地：〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL：075-753-3272, 3273, 3274

FAX：075-753-3277

E-mail：info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp

開館時間：9：30 - 16：30 (入館は16:00まで)

休館日：月曜、火曜、12月28日～1月4日

企画展：春季と秋季の年2回開催

入館料：一般400円、高校・大学生300円

小・中学生200円(割引制あり。詳細はHP)

交通案内：東大路通りに面した新設の入口から入館
(京都大学本部構内)

[京都市バス] “百万遍”停留所下車。

[京阪本線] “出町柳”駅下車、今出川通りを東へ進み、
百万遍交差点を右折南へ(徒歩15分)。

HP：<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>